



▼宮内集会所で、坂本梅林で収穫した梅を選別する宮内地区の皆さん



梅の量が多めで、粒もきれいなものが多く収穫できたとのこと。全体で、約400kgを収穫しました。

販売会場には、販売開始前から購入予約者などが次々と詰め掛けて盛況。地元の野菜などの生産物も並び、来場者は梅を見定めて購入しました。

白旗地区から訪れた70代の女性は、「毎年、予約して購入しています。宮内の梅を漬けるのが、いつも楽しみです」と話しました。

ちぎりたての梅はいかが

宮内梅まつり

5月21日（土）上揚の坂本梅林および宮内集会所で、宮内梅まつりが開催されました。

宮内地区活性化委員会（境国嗣会長）が主催。同地区の子ども会や区長会、地域住民などに加えて、甲佐小学校（本田尚一校長199人）の児童や保護者教諭なども参加し、総勢約70人で実施しました。

梅まつりは、昭和11年ごろ、当時の宮内小学校での農業実習のために植樹された「坂本梅林」で実った梅を収穫。宮内集会所で参加者が選別して袋詰めし、即日販売しています。

今年は、例年に比べて実った

ルールとマナーを守ろう

春の全国交通安全運動・街頭キャンペーン

5月17日（火）岩下の国道443号沿いの熊本バス車庫前で、春の全国交通安全運動の街頭キャンペーンが開催されました。

同キャンペーンは、毎年春に実施される同運動〔5月11日（水）～20日（金）〕の一環として実施。町の交通安全関係者や御船警察署員など約25人が参加。通行する自動車の運転手などに、交通事故防止や飲酒運転の撲滅、運転中の携帯電話の使用禁止など交通ルールとマナーの厳守を呼び掛けながら、交通安全を啓発するパンフレットや交通安全グッズを配布しました。



▲交通安全グッズを配って運転手に交通安全を呼び掛け



◀大きな声を出して空手の突きを練習する児童

武道で礼を学び心身を鍛錬

白旗小学校で「体験道場」を開催

5月19日（木）白旗小学校（作田潤一校長97人）で「体験道場」が開催され、同小5・6年児童が空手に挑戦しました。

武道を通して、礼を学び心身を鍛えることで、豊かな人間形成を図ることを目的に町教育委員会が主催。講師に、熊本県実践空手道連盟「勇誠塾」塾長の松岡勇二さん（上早川二区）を迎えて開催しました。

初めに、松岡さんの指導の下、姿勢を正して大きな声を出す腹式呼吸を練習。続いて、声を出しての突きの動作を習い、最後に講師を相手に実際に突きと蹴りに挑戦しました。

松岡さんは「姿勢を正して大きな声を出すことが、あいさつや礼儀の基本です。しっかりと、自分の心と体を鍛えてください」と話しました。

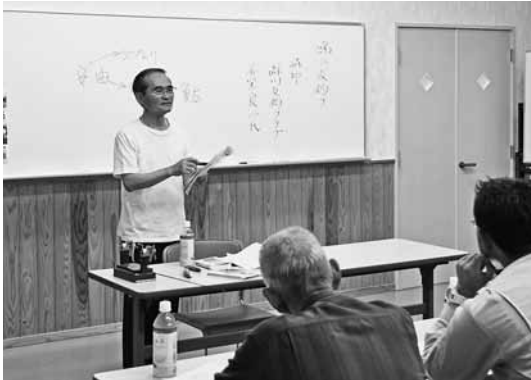
アユ釣り愛好者を増やそう

アユの友釣り初心者講習会

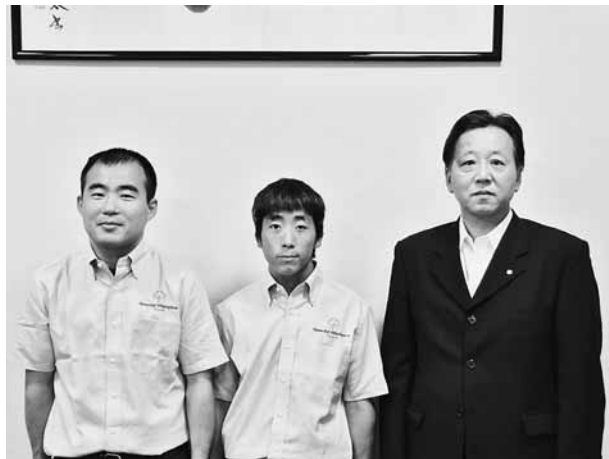
5月21日（土）甲佐町商工会館で、アユの友釣り初心者講習会が開催されました。

同講習会は、本町の名物である緑川でのアユの友釣りを、若者をはじめとして多くの人に楽しんでもらえるように、緑川漁業協同組合（坂本猛組合長）が主催、甲佐町商工会（中村幸男会長）、町が後援。講師に、緑川友釣りクラブ会長の赤星良一さん（緑町区）を迎えて、受講者約30人がアユ釣りについて学びました。

講習会では、アユの生態から釣り場所の見分け方、仕掛けの作り方などの説明がありました。



▲友釣りの説明をする緑川友釣りクラブ会長の赤星さん



▲表敬訪問した宮崎さん（左）と村岡さん

世界大会での活躍を期待

あゆの里学園から2人が日本代表に選出

6月25日（土）～7月4日（月）にギリシャのアテネで開催されるスペインオリンピックピククス夏季世界大会に、バレーボールピククス夏季世界大会に出場する宮崎真治さんと村岡紀彰さん（ともに知的障害者授産施設「あゆの里学園」）が、5月20日（金）町役場を表敬訪問しました。

同大会は、知的発達障がいのある人たちを対象として4年に1度開催されるスポーツ大会で、185の国と地域が参加し、約7,500人のアスリートが出場。2人は、昨年11月に大阪府で開催された日本大会に県代表として出場したときの活躍により、日本代表に選出されました。

大会に向けて「金メダルを取れるように、一生懸命にがんばります」と、2人は抱負を述べました。

新しい炭窯で木炭を増産

宮内炭生産組合の「宮内夢炭工房」が完成



▲坂谷に完成した「宮内夢炭工房」で炭生産を開始した宮内炭生産組合（後列左から3人目が西村彰組合長）のメンバーと地域の皆さん

宮内炭生産組合（西村彰組合長）が、4月中旬に坂谷に2つ目の炭焼き窯を手作りで完成させ、木炭の増産を本格的に始めました。

同組合では、3年前から小鹿に炭焼き窯を造り、木炭などの製造を始め、料理店などに出荷。好評につき生産量が追いつかないことから、新たに窯を造ることを検討。今年に入ってから着手し、組合員などが共同作業で完成させました。

新しい窯は、内部が長辺4尺、短辺3尺ほどのだ円形で、高さは最高で1.2尺。1回あたり木炭450kgと木酢200kgを製造が可能。竹炭も製造し、1回あたり200kgを焼くことができます。「宮内夢炭工房」と名付け、宮内地区の雑木や竹などを使って炭を作ります。

組合の運営は、組合員のほか宮内地区の婦人会など地域住民が協力して活動。5月9日（月）の初窯出しには、約20人が集まり作業しました。

西村組合長は、「炭焼きを通して、宮内地区の住民が集まり、楽しい時間を過ごせることが喜び。今後も、みんなで協力して炭焼きをすることで、宮内地区を元気にしたい」と抱負を述べました。